

評価者	都市整備部長	樋田 浩一
-----	--------	-------

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	水辺環境の整備・創出・管理
目標とすべきまちの姿	局所的な集中豪雨等が生じて、河川は氾濫することなく市民は安全に生活しています。また、河川津波遡上対策により、津波被害がほとんど発生しない状況となっています。水辺には動植物が生息し、市民の憩いの場となっており、景観にも配慮した観光都市にふさわしい水辺環境となっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	27.6%	平成29年度(2017年度)	26.2%	平成28年度(2016年度)	23.6%
	平成27年度(2015年度)	27.8%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.7%	0.3%	0.5%
	ちょうどよい	1.7%	48.8%	0.8%
	効果不十分	1.7%	2.3%	10.9%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.5%	0.7%	0.0%
	ちょうどよい	1.1%	53.3%	0.2%
	効果不十分	1.2%	2.6%	9.5%

平成29年度(2017年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.5%	0.9%	0.2%
	ちょうどよい	1.4%	55.2%	0.7%
	効果不十分	1.1%	3.4%	8.0%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.6%	0.9%	0.1%
	ちょうどよい	0.7%	53.2%	1.1%
	効果不十分	0.7%	2.3%	6.7%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	18.2%	48.3%	1.3%	32.2%
平成29年度(2017年度)	16.3%	51.0%	1.4%	31.3%
平成28年度(2016年度)	13.9%	56.5%	1.1%	28.6%
平成27年度(2015年度)	14.4%	50.9%	1.4%	33.2%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ確に実施する。(都整-34)
 普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつについては、費用対効果を考慮して計画的に実施し、施設機能の確保を図る。また、定期点検結果を基に適切な時期に実施するなど維持管理に努める。(都整-34、35、51)
 老朽化の進行が懸念される河川・蓋掛け水路・調整池等の効率的な維持管理のために、施設調査を実施する。(都整-34)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事、普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつは、市民生活を安全な環境に保つものである。(都整-34、35、51)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)		事業 内容	予算 規模
都整-10	河川管理運営事業	1,489	1,469	6,164	6,137	0.6	0.6	無	b	B
都整-34	河川維持補修事業	55,461	21,651	63,369	143,456	1.0	1.0	無	b	A
都整-35	雨水施設維持管理事業	3,783	3,797	6,155	6,840	0.3	0.3	無	b	A
都整-51	雨水施設維持管理事業	17,453	18,452	25,101	0	1.0	0	無	a	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】
 河川維持修繕工事、準用河川砂押川の根固め工事、普通河川滑川の護岸工事を実施した。準用河川小袋谷川、普通河川滝ノ川、及び河川管理施設の維持修繕業務を実施した(都整-34)
 準用河川小袋谷川及び調整池のしゅんせつを実施した。また、機器が良好に作動するよう適正な維持管理に努めた(都整-34、35、51)
 老朽化の進行が懸念される河川・蓋掛け水路・調整池等の効率的な維持管理のために、施設調査を実施した。(都整-34)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善

< 上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等 >
 ・迅速な対応を図るため、河川維持管理協力団体及び市職員による定期的な巡回を実施した。(都整-34、35、51)
 ・河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、安全性を考慮しつつ、低廉な工法を選定し実施した。(都整-34、35)
 雨水調整池やゲートの類等の雨水排水施設について定期点検及び自主点検を行い良好な状態を保持した。(都整-35、51)
 準用河川及び調整池のしゅんせつを行い良好な状態を保持した。(都整-34、35)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・予防保全型管理と事後保全型管理を効果的に組み合わせ、計画的かつ効率的な維持・管理・補修・更新・運営を行う。(都整-34、35、51)
- ・河川維持管理協力団体と更なる連携が必要であることから継続的な活動を支援する方法を検討する。(都整-34、35)
- ・河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ的確に実施する。(都整-34、35)

(7) 令和元年度(2019年度)の目標

河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ的確に実施する。(都整-34、35)
 普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつについては、費用対効果を考慮して計画的に実施し、施設機能の確保を図る。また、定期点検結果を基に適切な時期に実施するなど維持管理に努める。(都整-34、35、51)
 老朽化の進行が懸念される河川・蓋掛け水路・調整池等の効率的な維持管理のため、平成30年度施設調査の結果を踏まえ、詳細調査を実施する。(都整-34)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

河川施設の維持修繕業務、維持修繕工事や、普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつは、安全な市民生活を保つ。(都整-34.35.51)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	都整-34	事業名	河川補修事業					単位	m	指標の傾向	備考		
指標の内容	準用河川の修繕							単位	m	指標の傾向	備考		
当該指標を設定した理由	年次							H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
準用河川において継続的な修繕が必要なため。	目標値	35.0							35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
	実績値	23.0							27.0	15.2	0.0	21.0	
	達成率	65.7%							77.1%	43.4%	0.0%	60.0%	
整理番号	都整-34	事業名	雨水施設維持管理事業					単位	箇所	指標の傾向	備考		
指標の内容	ゲート類の点検							単位	箇所	指標の傾向	備考		
当該指標を設定した理由	年次							H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
浸水対策としてゲート類の良好な機能維持が必要なため。	目標値	58.0							58.0	58.0	58.0	58.0	58.0
	実績値	58.0							58.0	58.0	58.0	58.0	
	達成率	100.0%							100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
整理番号	都整-35	事業名	雨水施設維持管理事業					単位	箇所	指標の傾向	備考		
指標の内容	雨水調整池のしゅんせつ							単位	箇所	指標の傾向	備考		
当該指標を設定した理由	年次							H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
浸水対策として雨水調整池のしゅんせつは継続的な対応が必要なため。	目標値	2.0							2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	実績値	1.0							0.0	2.0	2.0	2.0	
	達成率	50.0%							0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・河川維持管理協力団体と市の連携が十分に図られていないことは課題である。憩いの場、動植物の息が書かれているが、目標、実施内容には上がっていない。水辺環境の創出についてどのように捉えているかが指標化されていない。

・市内において現在の水辺環境にどこに大きな問題があり、そこについてどのように注力しているのかが、評価シートから読み取りにくい。

指摘への対応、コメント等

・市民により作られた河川維持管理協力団体から河川清掃、目視による生態系調査について報告を受けています。今後も連携をより密にしていきます。
・市民の憩いの場となる親水性のある河川整備事業については、用地確保や維持保全に多額の費用を要することが課題である。現在は、豪雨による浸水など治水対策に重点をおき整備を進めています。

提言

・施設の現状把握を実施し、優先順位を付け、計画的・効率的に業務を実施し、限られた予算を有効に執行してほしい。

・老朽化の進行が懸念される河川・蓋掛け水路・調整池等の効率的な維持管理のため、施設調査を実施してほしい。

・河川の維持管理により、水辺環境も整えられてくると思うが、整備のみでなく水辺環境の創出を積極的に行ってほしい。

・「局所的な集中豪雨等が生じても、河川は氾濫することなく市民は安全に生活しています。」ほどの程度の雨量を想定し、どの程度実現されているのか？また「防災」分野との連携はされているのか？「河川津波遡上対策により、津波被害がほとんど発生しない状況となっています。」の津波は何mを想定し、対策をどのようなもので、どの程度実現されているのか？明確にすべき。

・毎年指摘しているが、「適切かつ的確に実施する。」等の表現については、「適切」または「的確」と第三者が判断できる根拠を示して頂きたい。

・調査の結果何がわかり、今後どうする事で効率化が計られるのかを示して頂きたい。

・「目標とすべきまちの姿」の具体的などの部分にどう結びついているのかを明確にして頂きたい。

提言に対するコメント等

社会基盤施設マネジメント計画に基づき、修繕・改修計画を実施してまいります。雨水施設については、平成30年度には目視調査をおこないました。その調査結果に基づき、平成31年度には、詳細調査を行います。生態系の保全に配慮が必要な箇所での維持管理作業については、地元と実施可能な区間・時期等の相談をしながら実施していくなど自然と一体となった水辺環境の保全を行っていきます。

雨水の整備水準としては、1時間当たり57.1mmに対応したハード整備を行い、計画降雨に対する浸水被害軽減の実現を目指します。また大雨時には「防災」分野との連携を密に取り、市民の安全を図ることを優先的に考慮し、対応します。また津波は(大正関東大震災津波の再来型を想定した)津波水位6.0mを想定したものです。

河川の修繕や雨水調整池のしゅんせつ等において、毎年度毎に目標値を設定し、その目標値を達成することで、適切かつ的確に実施していると判断しています。

平成30年度には河川・蓋掛け水路・調整池等の外観目視調査を実施し、河川内の障害物、亀裂等の維持管理に支障のある箇所の把握を行いました。平成31年度においては、支障箇所について、詳細な調査を行い、調査後、優先順位等を設定していきます。これにより、効率的な修繕を実施していきます。

準用河川の修繕や雨水調整池のしゅんせつを進めることにより、市街地への降雨を速やかに排水することが可能となるため、住宅地の浸水が減少します。このことが市民が安全に生活することに結びついています。

質問

・しゅんせつと、水辺環境の配慮は相反する部分がある。その辺り、どのような工夫をしているのか。考えを知りたい。

・目標とすべきまちの姿にある「水辺には動植物が生息し、市民の憩いの場となっており、景観にも配慮した観光都市にふさわしい水辺環境となっています。」の「動植物」は具体的に何であり、生息調査は行われているのか？また実現度はどう判断しているのか？

・平成29年度の目標の「にある「費用対効果を考慮して計画的に～」については、何をもって「費用対効果」を出しているのか？

質問に対する回答

河川のしゅんせつでは、貴重な生物が生息している場合には地元住民と相談し、生息に必要な土砂や植物等は可能な限り残すなどの配慮を行いながら実施しています。

生態系の保全に配慮が必要な箇所での維持管理作業については、地元と実施可能な区間・時期等の相談をしながら実施しています。

定期的なパトロールで各河川、調整池の状況把握を行い、予防保全型の修繕、浚渫を実施し、河川護岸等の崩壊を未然に防ぐことで、修繕費が多額にならないよう努めています。

水辺環境の整備・創出・管理

評価できるところ

- ・河川施設の突発的な維持修繕業務や請負工事については、概ね対応できた。
- ・協力団体と連携し、良好な水辺環境を目指し、親しまれる川づくりを図っている。
- ・迅速な対応を図るため、定期的に巡回、点検をしている。

評価の内訳				委員会の評価
取組	1	0	7	-
効果	1	0	-	7

課題

- ・指標の「準河川の修繕の実績」が低いのが気になる。目標とすべきまちの姿にある「局所的な集中豪雨等が生じても、河川は氾濫することなく市民は安全に生活しています。」という姿にはなっていない。
- ・「マネジメント計画」の内容ではどう記述しているか。予防保全型管理と事後保全型管理を効果的に組み合わせるは意味として分かりにくい。

提言

- ・施設の現状把握を実施し、優先順位を付け、計画的・効率的に業務を実施し、限られた予算を有効に執行してほしい。
- ・老朽化の進行が懸念される河川・蓋掛け水路・調整池等の効率的な維持管理のため、施設調査を実施してほしい。
- ・近年の不安定な天候を踏まえ、雨水の整備水準、津波水位等見直してほしい。
- ・安全対策・防災対策工事等については引き続き、最大限のスピードで進めて欲しい。
- ・目標にはまちの姿の「局所的な集中豪雨等が生じても、河川は氾濫することなく市民は安全に生活」出来るよう、「○○○を行います」等、具体的に表現してほしい。

質問

- ・河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ的確に実施とあるが、「適切かつ的確」とは具体的に何か。
- ・「雨水排水施設」の「自主点検」とはどういう意味か？ 定期点検以外の「随時点検」の意味か？
- ・河川維持管理団体および市職員による定期的な巡回を実施したとあるが、その結果は市民に公表されているか。
- ・施策の方針にある「創出」とは具体的にどの様なものか、また整備と管理はどの様に分けているのか？